令和７年度 第5回藤沢市市民活動推進委員会 議事概要

１　日　　時

２０２５年（令和７年）９月１９日（金）午前１０時

２　場　　所

オンライン（Zoom）

３　出 席 者

（１）委　員　１３人

山岡委員長、坂井副委員長、大高委員、大場委員、鍛地委員、永山委員、新實委員、西村委員、笛木委員、藤田委員、水戸委員、森田委員、細沼委員

（２）事務局　５人

木村参事、黒澤主幹、二宮課長補佐、緒方上級主査、土倉職員

（３）その他

傍聴者　０人

４　議 題 等

（１）令和８年度ミライカナエル活動サポート事業について

（２）藤沢市市民活動推進計画の改定について

（３）その他

５　概　　要

〇開会

〇委員長が開会を発声。事務局から、委員会成立の報告が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題（１）令和８年度ミライカナエル活動サポート事業について

〇事務局から、令和８年度ミライカナエル活動サポート事業について説明が行われた。

〇委員から（発言要旨）

（委員）事務局からミライカナエル活動サポート事業のリニューアルについて見直しの提案がされた。令和７年度は予算の大幅な削減があり、諸々できなかったり、採択件数が少ないということがあったが、結局今年度と同じ予算となると議論しても何もならないということになる。共創の部署と調整をしたというが、この件数と金額だと協働コースが次の年４００万を超えるぐらいの額。財政部局との調整はこれからということだが、見通しなど聞かせていただきたい。

（事務局）財政部局との調整はこれからのため、今、事務局として考えている回答となるが、ミライカナエル活動サポート事業については財政部局から求められていた課題について全て対応していくつもりであり、今年度の予算と比べ増額要求になる部分があるが、採択数等を考えながら対応する。一方で財源の獲得を進めていく姿勢を示しスタート支援コース・ステップアップ支援コース・協働コース全てについて、継続していきたい。

（委員）予算の話で、来年度も協働コーディネートや伴走支援等、団体に支払う補助金以外の支援なども考えているか。

（事務局）ミライカナエル活動サポート事業を実施してきた中で、伴走支援講座や相談会、協働コーディネーターの伴走が非常に有効であった。来年度以降も補助金の交付だけでなく、伴走支援・協働コーディネート支援もしていきたい。

（委員）付随して、事業終了後のアンケートを３年後取るということは、協働コーディネートと伴走支援も３年後までサポートするイメージか。それとも１年なのか。

（事務局）補助金終了後のアンケートは今後も取っていくが、協働コーディネーター・伴走支援者にお願いをする期間は補助期間中で考えている。

（委員）共創推進課との業務整理で、資料１－１の下に共創という言葉と協働

とあるが、改めて教えていただきたい。

（事務局）協働と共創について、協働は二者以上で目的や目標を共有し、事業をともに実施していくこと。そこに加え、その協働事業を通して、新たな価値を創造していくのを共創と捉えており、共創の中に協働も入っているが、さらに協働して、両者で強みを生かし、事業をやっていく先に新たな価値の創造が入っているところが共創と考えている。

（委員）（ミライカナエル活動サポート事業の）リニューアルの話で、事業参加団体に取ったアンケートの件だが、情報共有はあったか。リニューアルを検討するにあたり再度背景情報があるとありがたい。確認したいのは、実際に参加した団体がこの事業の改正について、要望や、やりやすかった・やりにくかった等声があれば聞きたい。

もう一点は、団体支援・団体育成を目的とするということだが、今までも協働コーディネーターをつけていたが、おそらく団体はその区分けをせずに市からの助成金という扱いであったかと思う。今回もその共創推進課との切り分けをするということであれば、その辺りは明確に広報し、相手にも団体育成ということを認識してもらえるといい。

最後に資金調達について、具体的にどんな企業からの案があるのか。今のところの案や見通しなどがあれば教えてほしい。

（事務局）補助終了後１年以上経過した団体へのアンケートについては事務局でリニューアル立案のために参考に取ったが、特に資料としての用意をしていない。ただ、団体の声として、どこが役に立ったかというところでは、補助を受けたことで継続的な事業の実施に役立っているかの質問は、団体の認知度や信頼度が向上したことが一番多い回答であった。他には広報力についても回答数が多かった。その他には外部組織・他団体との連携や協働による相乗効果といった回答があった。協働による相乗効果も、必ずしも協働コースの団体がというわけではなく、ステップアップ支援コースの団体が連携や協働に役立ったという話もあったので、ステップアップで基盤強化されたことで他団体との連携の広がりに繋がったのではないか。

事業を継続する上で課題として感じていることも同じようにアンケートをとったが、人材の確保や人材育成に課題を感じている団体が多かった。その他には、財源の確保や組織マネジメント。人材確保や人材育成は団体の中でのコアメンバーやコミュニティのメンバーなどが考えられるが、事業を実施していく中で、組織にいろいろな方に関わってもらう、巻き込んでいく等の組織作りの知識などを獲得できるような補助期間にしていく必要がある。
補助期間・補助金の交付以外で希望することを聞いたが、団体活動や運営全般に関する相談等では、市民活動支援施設で広く対応をしてもらっている。その他にも採択団体同士の交流機会を望む団体もいるので、今年度も交流会を開催する。

意見の３つ目の共創との住み分けだが、団体の育成か、協働事業をすること自体への支援かということは意識されていない部分もある。募集説明会や、募集案内等で協働コースというプロセスを通じて、協働の力を養ってもらうコースということを説明していく。

最後に企業からの協賛金の関係については、まだ検討段階で決まっていないが、企業としてもメリットを感じられる形で協賛をお願いしたい。藤沢市にはSDGs を達成したい企業は複数おられるので、ミライカナエル活動サポート事業への支援の呼びかけをしていきたい。

（委員）全体的に非常にくっきりした。良い見直しができている。
特に民民協働のユニット提案について良い見直しになった。スタートとステップについて、８月スタートで３月終了と期間が１年間に至らないが、８月から７月とできないのか。会計年度の原則があるからか。
２点目は設立からの年数が任意団体としてスタートしたときからか。例えば、ステップは２０年末満だが、最初の１～２年は任意団体で、その後法人化した場合は法人化してからの年数ではなく、当初からの年数なのか。きちんと対応ができるようにしておく必要がある。
３点目は中間報告会だが、必要だと思うが協働の場合、同時期にやろうとすると、ほとんど終盤になってからの中間報告会になってしまう。やはり協働コースもこの時期なのか。

（事務局）スタート・ステップアップ支援コースの事業期間は、これまでどおり当年度８月から３月の８ヶ月間と考えており、年度をまたぐのは単年度会計のため難しい。１年間の中で企画から振り返りまで全てやってもらうことで、その次の年につなげてもらいたいとこの期間にしている。
２つ目、団体の要件で何年、いつ、法人の団体が任意団体の始まりになるのかについて、任意団体が法人成りしたパターンであれば、基本的に任意団体の設立の年月日になる。そこが混乱するのではないかという懸念を踏まえ、募集の前に整理をしておく。
３つ目の中間報告会については、年間スケジュールで協働コースの事業開始が当年度１１月で１年目は中間報告会はなく、５ヶ月分の事業完了書類が出て、翌年１１月に中間報告会となるので、事業の後半に中間報告会がくるというのはご指摘のとおり。改めて事務局でも検討するが、市民活動推進委員会の開催スケジュールを踏まえ、この形で考えている。１年目の３月が終わり、５ヶ月間終わった後に書類で事業完了報告。委員会にも例年どおり報告するので、お読みになって何かあれば団体にフィードバックをする。
（委員）無理のない範囲で。協働の中間報告はもう少し早い方がいいかなと印象を受けた。例えば残り半年ほどある時期を目標にするなど。可能であれば検討いただきたい。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

【議題２】藤沢市市民活動推進計画の改定について

○事務局から、藤沢市市民活動推進計画の改定について説明が行われた。また、説明の冒頭に、８月２日に開催した藤沢の市民活動の未来を考えるワークショップについて、市民活動推進センターセンター長から報告があった。

○委員から（発言要旨）

（委員）６ページ目の図の市民活動団体などのＮＰＯと地縁団体・サークルなどのところだが、「地縁団体」で分かる人は分かると思うが、一般的に地縁団体とは何か。次に、１ページ目との整合性で、字数の問題で「地縁団体」にしたと思うが、できれば、自治会町内会に合わせた方が分かりやすい。字数制限で難しいなら仕方ないが。

（事務局）書式も見て、検討したい。

（委員）８月２日の報告を聞くと若い方の参加もあり、このような活動できる場や機会の必要性や、情報発信をという声もあり、強調しなければならないなと思う。

（事務局）１ページ目下に若い世代の参加促進と謳わせており、様々な世代はもちろんだが、若い世代も含めて暮らしの豊かさに繋がる計画を策定したいと掲げたつもりであるが、その辺についてはどのように考えるか。

（委員）７ページ目の基本指針２、市民活動の場の確保について、市民活動推進センター、市民活動プラザむつあいの機能を充実し、とあるが、第５期の期間中に OurProject で推進センターが市民会館へ移転はほぼ決まりだと思うが、今より広くなることはないと思っていて、機能をより充実することは難しい部分が出ると思う。場の確保は、８月２日のワークショップでも場が大事と出ていたので、市民会館に移っても機能できるスペース的な広さ、ソフト面の確保ができるといい。充実すると言いつつ狭くなると、できない部分も出ることが懸念だ。計画を変えて欲しいということではない。

（事務局）移転については先月事業者と市が契約を結び、これから基本計画や、計画に基づいた設計が進んでいく。今の推進センターは単独館だが、いろいろな施設が同居する形になる。推進センターとも連絡を取りながら、より良い形に繋げていきたい。
この計画の中には直接は書いていないが、今の予定だと新しい市民会館は２０３１年からなので、２０２９年に計画を見直しをするスケジュール感だと、２年前になるのでより具体的になってくる。計画の中間見直しで見直しをすれば、今回のこの計画には具体的には書いてないが、事務局としてもそこは強く意識しているので大丈夫だと思う。

（委員）第１章の２、地域の抱える課題と今後の方向性という文章。地域コミュニティの希薄化や教育・超高齢化・外国人との繋がり云々と書いてあり、方

向性として誰もが市民活動に取り組める環境、高齢化を見据えて次世代への働きかけを強化するということで、市民活動がさらに活性化することを目指して、豊かさとウェルビーイングに繋げていきたいという構成だが、この海沿いに住んでいて、地域が抱える課題というのは、今後南海トラフの心配が皆さん多いと思う。この文章の中で海側に住んでいる地域が抱える課題の一つとして、安全安心といったフレーズがあってもいい。方向性としては「ウェルビーイング」もいいが、カタカナではなく、例えば「安心して暮らせるまち」や、わかりやすい言葉を使って、そういう方向に向かっていくというメッセージが伝わりやすい。プロボノやウェルビーイングという言葉はかっこいいが、そこにこだわる必要はないので、南海トラフとストレートに言うと刺激が強いので、言葉は選びつつも、安心安全に暮らせるまちを目指すという軸を持っておいた方が藤沢の方向性としてはいい。

（事務局）現在の課題もあるので、記載や、加筆できるように検討したい。

（委員）注釈で、ウェルビーイングが後でプロボノが先にきていて、３番と４番が逆。プロボノが３番でウェルビーイングが４番になる。

（事務局）修正する。

（委員）１ページ目の「高齢化の進行や収益規模の鈍化が見られて」はそのとおりだが、「収益規模の鈍化」が、市民活動等の言葉としては違和感を覚えた。利益を追求しない市民活動団体が中心としたものなので、「収益」よりも財源確保や資源確保などの言葉の方が良いのではないか。
２ページ目の地域が抱える課題と今後の方向性について、「学校教育の現場では総合的な学習で」とあるが、学校教育は総合的な学習だけではなく、部活動の地域移行などの言葉も入れる方が、メッセージ性としては強いのではないか。
４ページの「想いをつなぎ、行動でつくる藤沢の未来」のキャッチフーレズはとても気に入った。よく考えられている。「想い」は想像のとおりで「つなぎ」がひらがな、その後で「藤沢の未来」という漢字がきて、フレーズの並び

方も良い。
３ページの市民活動について、「あなたの何気ない日常も、もしかしたら」だが、外国の方は読めない。どこのフレーズを聞いていいかわからない。「あなたの何気ない日常『が』、もしかしたら」とした方がより良い読みやすくなる。わかりやすいと思う文章にした方がいいので、「ウェルビーイング」も高齢者にとっては、できるだけ横文字ではなく、簡単な日本語で説明してあげた方がいい。英語圏の方たちは、カタカナになるとかえってわからない人たちが出てくる。ウェルビーイングをそのまま使って良いが、注釈があると良い。

（事務局）４点指摘いただいたので、パブリックコメントの素案に向けて、見直す。

（委員）子供や一般向けに平易な言葉や、内容をもう少し簡単にして１枚にするなど、検討しているか。多言語化も必要と思う。ひらがなにするなど。

（事務局）策定後、冊子にするのは勿論だが、ウェブ上にも展開をしていきたい。これだけでも十数ページあるが、概略版については用意していきたい。一方で、わかりやすい日本語・ひらがな版あるいは多言語版については、今のところ予定はない。いずれにしても、何らかの形で市民活動を推進については周知していきたいので、貴重な意見として承らせていただく。

（委員）本文中にも「初等中等教育でも扱う」とあるので、小学生が読んでもわかるようなものであると、一般市民の参加も促進されるのではないか。検討をお願いしたい。

（委員）市民の活動の場の確保について、市民センター・市民の家の利用等を通じてと入っているので、市民の家と市民センターの利用システムの課題がある状況もあるので、そのようなものを活用して発展、稼働率も上げつつ、市民の活動の場にも広がっていくイメージかと思うが、パブコメのときに意見がいろいろ出てくる気配を感じた。市民の方の意見を聞く機会があった際、システムの使いにくさゆえにサークルが解散したとか、高齢の方が継続しにくくなっ

たと耳にした。そのような意見も踏まえて、「場の確保」や「場を使った」に今後指摘があるかなとの懸念があった。

（事務局）市民センター・市民の家の予約の仕方、決済の仕方が４月に変わり、いろいろ意見をいただいている。直接委員会で話すことではないかもしれないが、担当でより良い形での対応や寄り添った対応に努めている。市民活動推進センターやプラザむつあいでも、団体の方からの相談に対応していただいているので、そのようなこと、その他の情報提供なども通じて市民センター・市民の家という活用できる場所があるので、今まで使っていた方には寄り添った対応を、新しい方にはこういう場もありますよと広く情報提供に努めていきたい。

（委員）８ページの基本指針３の施策３－②について、市民による公益活動の充実に向けた協働の推進というこの表題だけを見たときに、意味合いがはっきりしないと思った。市民による公益活動を一つの塊として見るのか。市民による公益活動を一つの塊として、「充実」が何にかかっているのか。下の文章を見ると、これは市民が担う公益活動の充実という意味だと受け取ったが、その辺が明確ではないのと、文章上の表現の問題だが、そもそも協働というのは市民の公益活動の充実のためにあると決め切ってよいか、一回立ち止まって考えた方がいいかもしれない。
資料の１－２、ミライカナエル活動サポート事業の各コースの説明があり、概要を見ると、行政との協働のプロセスを通じて団体の資質を含む向上支援するということで、要するに団体支援ということもあるが、市民目線で捉えた課題を行政と一緒に解決すること自体を目標にカウントしなくていいのか。資料１－２の内容をそのまま捉えれば、今のこの文章を少し変えればよい気もした。市民と行政が一緒に課題に取り組んでいくということ自体も協働の目的だと捉えると、少し言葉足らずかもしれない。例えば、市民による公益活動の充実の間に一言差し込むとイメージが変わってくる。例えば、市民による公益活動と地域作りの充実など入れると誤解が生まれる余地が少なくなるので、協働事業の意味合いをもう一度確認しながら、ここの表現も確認した方が良い。

（事務局）協働事業のあり方、市民による公益活動の充実が限定的にとらわれ

てしまう恐れがあるところなので文言について検討する。

（委員）冊子の最初のイラストから、市民活動ができるのは元気な人たちというイメージが出てこないか心配。市民活動は誰でもできる、担い手になれるというメッセージをつけたいならば、このイラストは元気な人でないと市民活動は推進できないのではないかというイメージを目で感じる。隠れたメッセージで伝わる気がする。このイラストにプラス、別のところにベビーカーを押した親子や、障がいのある方たちのイラスト、外国の方なども入れる方が、「市民活動って誰もができるんですよ」というメッセージをイラストでも伝えていただけたらありがたい。

（事務局）ご意見のとおり。また、中に挿絵などがないと気づかされた。そちらも作成したい。

（委員）現状の計画は基本指針１が市民活動への参加促進で、基本指針２が市民活動を支援する体制の充実強化。基本指針３が多様な市民活動の創出。そんなに変わらない感じもするが、市民活動が、市民活動をやっている人の中で閉じていくようなイメージがあるので、そこをもっと押し広げていく。一方で、市民活動とは認識されていなかった活動。教育活動や、企業の活動など、多様なものにもその範囲が広がっているので、今までだったら参画促進という硬い言葉だったが、もう少し「知る、触れる」のような、その手前の部分のこともちゃんとやっていこうということと、今まで市民活動が閉じていたとするならば、そうではない活動が広がっているのだから、そこにもっと繋がっていこうと改めて協働を強調しているという違いがある。
基本指針２は、アウトリーチのような言葉が入っていて市民活動が多様化していく中で、それぞれに応じた支援策を講じていかないといけないことを強調しており、現行の基本計画から時代の状況変化に対応した打ち手をしていく必要があるということを表現していると理解している。それがビジョンに適切に表現されているかどうかは分からない。ビジョンは非常に簡潔なので、伝わりやすいような言葉や表現、場合によってはサブタイトルのようなものがあっても

良い。この計画の説明はあったが、どう変わるかという認識も確認しておく必要があると思い申し上げた。

（事務局）今までの計画よりは具体的に情報提供を、単に情報を出すだけではなく、相手を意識した取り組みが必要ではないか。相手に寄り添った情報提供や、あるいは支援の仕方の必要がある。先ほどメッセージを込めた挿絵という話もあったが、時代の変更の中でこの計画を作っていくので、具体的な事業の中で対応していきたい。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題（３）その他

〇事務局から、次回の開催日時等について連絡があった。また、Box システムの使用について説明があった。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

〇閉会

―終了―